雅歌

Song of Solomon

旧約聖書

第1章

1 ソロモンの雅歌

2 あの方が私に 口づけしてくださったらよいのに。 あなたの愛は、ぶどう酒にまさって麗しく、

3 あなたの香油は香り芳しく、 あなたの名は、注がれた香油のよう。 そのため、おとめたちはあなたを愛しています。

4 私を引き寄せてください。 私たちはあなたの後から急いで参ります。 王は私を奥の間に伴われました。 私たちはあなたにあって楽しみ喜び、 あなたの愛をぶどう酒にまさってほめたたえます。 あなたは心から愛されています。

5 エルサレムの娘たち。 ケダルの天幕のように、 ソロモンの幕のように、 私は黒いけれども美しい。

6 あなたがたは私を見ないでください。 私は日に焼けて、浅黒いのです。 母の息子たちが私に怒りを燃やし、 私を彼らのぶどう畑の番人にしたのです。 でも、私は自分のぶどう畑の番はしませんでした。

7 私のたましいの恋い慕う方。 どうか私に教えてください。 どこで羊を飼っておられるのですか。 昼の間は、どこでそれを休ませるのですか。 なぜ、私はあなたの仲間の羊の群れの傍らで、 顔覆いをつけた女のようにしていなければ ならないのでしょう。

8 女の中で最も美しいひとよ。 あなたが知らないのなら、 羊の群れの足跡を追って出て行き、 羊飼いたちの住まいの傍らで、 あなたの子やぎを飼いなさい。

9 わが愛する者よ。私はあなたを ファラオの戦車の間にいる雌馬になぞらえよう。

10 飾り輪のあるあなたの頬は美しい。 宝石の首飾りがかけられたあなたの首も。

11 私たちは金の飾り輪をあなたのために作ろう。 そこに銀をちりばめて。

12 王が長椅子に座っておられる間、 私のナルドは香りを放っていました。

13 私の愛する方は、私にとって、 私の乳房の間に宿る没薬の袋。

14 私の愛する方は、私にとって、 エン・ゲディのぶどう畑にあるヘンナ樹の花房。

15 ああ、あなたは美しい。わが愛する者よ。 ああ、あなたは美しい。あなたの目は鳩。

16 私の愛する方。 ああ、あなたはなんと美しく、慕わしい方。 私たちの寝床も青々としています。

17 私たちの家の梁は杉の木、 私たちの垂木は糸杉。

第2章

1 私はシャロンのばら、 谷間のゆり。

2 わが愛する者が娘たちの間にいるのは、 茨の中のゆりの花のようだ。

3 私の愛する方が 若者たちの間におられるのは、 林の木々の中のりんごの木のようです。 その木陰に私は心地よく座り、 その実は私の口に甘いのです。

4 あの方は私を酒宴の席に 伴ってくださいました。 私の上に翻る、あの方の旗じるしは愛でした。

5 干しぶどうの菓子で私を力づけ、 りんごで元気づけてください。 私は愛に病んでいるからです。

6 ああ、あの方の左の腕が私の頭の下にあって、 右の腕が私を抱いてくださるとよいのに。
7 エルサレムの娘たち。 私は、かもしかや野の雌鹿にかけてお願いします。 揺り起こしたり、かき立てたりしないでください。 愛がそうしたいと思うときまでは。
8 私の愛する方の声がする。 ほら、あの方が来られる。 山を跳び越え、丘の上を跳ねて。
9 私の愛する方は、 かもしかや若い鹿のようです。 ほら、あの方は私たちの壁の向こうで じっと立ち、窓からうかがい、 格子越しに見ています。
10 私の愛する方は、 私に語りかけて言われます。 「わが愛する者、私の美しいひとよ。 さあ立って、出ておいで。
11 ご覧、冬は去り、 雨も過ぎて行ったから。
12 地には花が咲き乱れ、 刈り入れの季節がやって来て、 山鳩の声が、私たちの国中に聞こえる。
13 いちじくの木は実をならせ、 ぶどうの木は花をつけて香りを放つ。 わが愛する者、私の美しいひとよ。 さあ立って、出ておいで。
14 岩の裂け目、崖の隠れ場にいる私の鳩よ。 私に顔を見せておくれ。 あなたの声を聞かせておくれ。 あなたの声は心地よく、あなたの顔は愛らしい。」
15 私たちのために、 あなたがたは狐を捕らえてください。 ぶどう畑を荒らす小狐を。 私たちのぶどう畑は花盛りですから。
16 私の愛する方は私のもの。 私はあの方のもの。 あの方はゆりの花の間で群れを飼っています。
17 私の愛する方よ。 そよ風が吹き始め、影が逃げ去るまでに、 あなたは戻って来て、 険しい山々の上のかもしかや 若い鹿のようになってください。

第3章

1 私は夜、床についていても、 私のたましいの恋い慕う方を捜していました。 私が捜しても、あの方は見つかりませんでした。
2 「さあ、起きて町を行き巡り、 通りや広場で、 私のたましいの恋い慕う方を捜して来よう。」 私が捜しても、あの方は見つかりませんでした。
3 町を行き巡る 夜回りたちが私を見つけました。 「私のたましいの恋い慕う方を、 お見かけになりませんでしたか。」
4 私は彼らのところを通り過ぎると間もなく、 私のたましいの恋い慕う方を見つけました。 私はこの方をしっかり捕まえて放さず、 ついには私の母の家に、 私を身ごもった人の奥の間に、お連れしました。
5 エルサレムの娘たち。 私は、かもしかや野の雌鹿にかけてお願いします。 揺り起こしたり、かき立てたりしないでください。 愛がそうしたいと思うときまでは。
6 煙の柱のように荒野から上って来るのは何だろう。 没薬や乳香、 隊商のあらゆる香料の粉末をくゆらせて来るのは。
7 見よ、あれはソロモンの乗る輿。 周りには、イスラエルの勇士の六十人衆がいる。
8 彼らはみな剣を帯びた 練達の戦士。 それぞれ腰に剣を帯びて 夜襲に備える。
9 ソロモン王は、レバノンの木で 自分のために駕籠を作った。

10 その支柱は銀、背は金、 座席は紫布で作り、 内側には、エルサレムの娘たちの 愛の切りばめ細工が施されている。

11 シオンの娘たち。 ソロモン王を見に出かけなさい。 王は、ご自分の婚礼の日、心の喜びの日に、 母がかぶらせた冠をかぶっている。

第4章

1 ああ、あなたは美しい。わが愛する者よ。 ああ、あなたは美しい。 あなたの目は、ベールの向こうの鳩。 髪は、ギルアデの山を下って来る やぎの群れのようだ。

2 歯は、洗い場から上って来た、 毛を刈られた雌羊の群れのよう。 それはみな双子で、 一方を失ったものはそれらの中にはいない。

3 唇は紅の糸のようで、 口は愛らしい。 頬はベールの向こうで、 ざくろの片割れのようだ。

4 首は、兵器倉として建てられた ダビデのやぐらのよう。 その上には千の盾が掛けられ、 すべて勇士の丸い小盾だ。

5 二つの乳房は、 ゆりの花の間で草を食べている双子のかもしか、 二匹の子鹿のようだ。

6 そよ風が吹き始め、影が逃げ去るまでに、 私は没薬の山、乳香の丘に行こう。

7 わが愛する者よ。あなたのすべては美しく、 あなたには何の汚れもない。

8 花嫁よ。私と一緒にレバノンから、 私と一緒にレバノンから来ておくれ。 アマナの頂から、セニルの頂、ヘルモンの頂から、 獅子の洞穴、豹の山から下りて来ておくれ。

9 あなたは私の心を奪った。私の妹、花嫁よ。 あなたは私の心を奪った。 ただ一度のまなざしと、 首飾りのただ一つの宝石で。

10 私の妹、花嫁よ。 あなたの愛は、ぶどう酒にまさって麗しく、 あなたの香油の香りは、 すべての香料にまさっている。

11 花嫁よ。あなたの唇は蜂蜜を滴らせ、 舌の裏には蜜と乳がある。 衣の香りは、 レバノンの香りのようだ。

12 私の妹、花嫁は、閉じられた庭、 閉じられた源、封じられた泉。

13 あなたの産み出すものは、 最上の実を実らせるざくろの園、 ナルドとともにヘンナ樹、

14 ナルドとサフラン、菖蒲とシナモンに、 乳香の採れるすべての木、 没薬とアロエに、香料の最上のものすべて、

15 庭の泉、湧き水の井戸、 レバノンからの流れ。

16 北風よ、起きなさい。南風よ、吹きなさい。 私の庭に吹いて、その香りを漂わせておくれ。 私の愛する方が庭に入って、 その最上の実を食べることができるように。

第5章

1 わが妹、花嫁よ、私は私の庭に入った。 私の没薬を、私の香料とともに集め、 私の蜂の巣を、私の蜂蜜とともに食べ、 私のぶどう酒を、私の乳とともに飲んだ。 食べよ。友たちよ、飲め。 愛に酔え。

2 私は眠っていましたが、心は目覚めていました。 すると声がしました。 私の愛する方が戸をたたいています。 「わが妹、わが愛する者よ。 私の鳩よ。汚れのないひとよ。 戸を開けておくれ。 私の頭は露にぬれ、 髪の毛も夜のしずくでぬれているので。」

3 私は衣を脱いでしまいました。 どうして、また着られるでしょう。 足も洗ってしまいました。 どうして、また汚せるでしょう。

4 私の愛する方が、戸の穴あたりに手を差し入れ、 私の胸は、あの方のゆえにときめきました。

5 私は起きて、 私の愛する方のために戸を開けようとしました。 私の手から没薬が滴り、 私の指から没薬の液が かんぬきの取っ手に流れ落ちました。

6 愛する方のために戸を開けると、 愛する方は、背を向けて去って行きました。 私は、あの方のことばで気を失うばかりでした。 あの方を捜しても、 見つけることができませんでした。 あの方を呼んでも、 あの方は答えられませんでした。

7 町を巡回している夜回りたちが私を見つけて、 私を打ち、傷つけました。 城壁を守る者たちも、 私のかぶり物をはぎ取りました。

8 エルサレムの娘たち。 あなたがたにお願いします。 私の愛する方を見つけたら、 あの方に言ってください。 私は愛に病んでいる、と。

9 あなたの愛する方は、ほかの親しい者たちより 何がまさっているのですか。 女の中で最も美しいひとよ。 あなたの愛する方は、ほかの親しい者たちより 何がまさっているのですか。 あなたがそのように私たちに切に願うとは。

10 私の愛する方は、輝いて赤く、 万人に抜きん出ています。

11 その頭は純金。 髪はなつめ椰子の枝で、 烏のように黒く、

12 目は乳で洗われ、 池のほとりに住む、水の流れのそばの鳩のよう。

13 頬は香料の花壇のようで、 良い香りを放つ。 唇はゆりの花。 没薬の液を滴らせる。

14 腕は金の棒で タルシシュの宝石がはめ込まれ、 からだは象牙の細工で サファイアでおおわれている。

15 足は大理石の柱で、 純金の台座に据えられている。 その姿はレバノンのよう。 その杉の木のようにすばらしい。

16 その口は甘美そのもの。 あの方のすべてがいとしい。 これが私の愛する方、これが私の恋人です。 エルサレムの娘たちよ。

第6章

1 あなたの愛する方はどこへ行かれたのでしょう。 女の中で最も美しいひとよ。 あなたの愛する方はどこへ向かわれたのでしょう。 私たちも、あなたと一緒に捜しましょう。

2 私の愛する方は、自分の庭へ、 香料の花壇へ下って行かれました。 園の中で群れを飼うために、 ゆりの花を摘むために。

3 私は、私の愛する方のもの。 私の愛する方は私のもの。 あの方はゆりの花の間で群れを飼っています。

4 わが愛する者よ。 あなたはティルツァのように美しい。 あなたはエルサレムのように愛らしい。 だが、旗を掲げた軍勢のように恐れられる。

5 あなたの目を私からそらしておくれ。 それが私を引きつける。 あなたの髪は、ギルアデから下って来る やぎの群れのようだ。

6 歯は、洗い場から上って来た 雌羊の群れのよう。 それはみな双子で、 一方を失ったものはそれらの中にはいない。

7 頬はベールの向こうで、 ざくろの片割れのようだ。
8 王妃は六十人、側女は八十人、 おとめたちは数知れない。
9 汚れのないひと、私の鳩はただ一人。 彼女は、母にはひとり子、 産んだ者にはまばゆい存在。 娘たちは彼女を見て、幸いだと言い、 王妃たち、側女たちも見て、彼女をほめた。
10 「このひとはだれでしょう。 暁のように見下ろし、 月のように美しく、 太陽のように明るく、 旗を掲げた軍勢のように恐ろしい。」
11 私はくるみの木の庭へ下って行きました。 谷の新緑を見るために。 ぶどうの木が芽を出したか、 ざくろの花が咲いたかを見るために。
12 気づいたら、 私は民の高貴な人の車に乗せられていました。
13 帰りなさい、帰りなさい。シュラムの女よ。 帰りなさい、帰りなさい。 私たちがあなたを見ることができるように。 どうしてあなたがたはシュラムの女を見るのか。 二つの陣の舞のように。

第7章

1 なんと美しいことか。 高貴な人の娘よ、サンダルをはいたあなたの足は。 あなたのももの丸みは飾りのようで、 名人の手のわざだ。
2 ほぞは丸い杯。 混ぜ合わせたぶどう酒は尽きない。 腹は小麦色の山。 ゆりの花で囲まれている。
3 二つの乳房は、 二匹の子鹿、双子のかもしかのようだ。
4 首は象牙のやぐらのようで、 目は、バテ・ラビムの門のそばのヘシュボンの池。 鼻は、ダマスコの方を見張る レバノンのやぐらのようだ。
5 頭はカルメル山のようにそびえ、 髪の毛は紫の羊毛のよう。 王はそのふさふさした髪のとりこになった。
6 ああ、人を喜ばせる愛よ。 あなたはなんと美しく、麗しいことよ。
7 あなたの背たけはなつめ椰子の木のよう、 乳房はその実の房のようだ。
8 私は言った。 「なつめ椰子の木に登り、その枝をつかみたい。 あなたの乳房はぶどうの房のようであれ。 息の香りはりんごのようであれ。
9 あなたの口は最良のぶどう酒のようであれ。」 そのぶどう酒は、私の愛する方に滑らかに流れ、 眠っている者たちの唇に流れる。
10 私は、私の愛する方のもの。 あの方は私を恋い慕う。
11 さあ、私の愛する方よ。 私たちは野に出て行って、 村で夜を過ごしましょう。
12 私たちは朝早くからぶどう畑に行き、 ぶどうの木が芽を出したか、 ぶどうの木が花を咲かせたか、 ざくろの花が咲いたかどうかを見ましょう。 そこで私は、私の愛をあなたにささげます。
13 恋なすびは香りを放ち、 私たちの門のそばには、 すべての最上の果物があります。 新しいものも、古いものも。 私の愛する方よ、 これはあなたのために蓄えておいたものです。

第8章

1 ああ、もし、あなたが私の母の乳房を吸った 私の兄弟のようであったなら、 私が外であなたに会って あなたに口づけしても、 だれも私を蔑まないでしょうに。

2 私はあなたを導いて、 私を育ててくれた私の母の家にお連れして、 香料を混ぜたぶどう酒、 ざくろの果汁を あなたに飲ませて差し上げましょう。

3 ああ、あの方の左の腕が私の頭の下にあって、 右の腕が私を抱いてくださるとよいのに。

4 エルサレムの娘たち。 私はあなたがたにお願いします。 揺り起こしたり、かき立てたりしないでください。 愛がそうしたいと思うときまでは。

5 自分の愛する方に寄りかかって、 荒野から上って来る女の人はだれでしょう。 私はりんごの木の下であなたの目を覚まさせた。 そこは、あなたの母があなたのために 産みの苦しみをした所。 そこは、あなたを産んだ人が産みの苦しみをした所。

6 封印のように、私をあなたの胸に、 封印のように、あなたの腕に押印してください。 愛は死のように強く、 ねたみはよみのように激しいからです。 その炎は火の炎、すさまじい炎です。

7 大水もその愛を 消すことができません。 奔流もそれを押し流すことができません。 もし、人が愛を得ようとして 自分の財産をことごとく与えたなら、 その人はただの蔑みを受けるだけです。

8 私たちの妹は若く、乳房もない。 私たちの妹に縁談のある日には、 彼女のために何をしてあげようか。

9 もし彼女が城壁だったら、 その上に銀の胸壁を建ててあげよう。 彼女が戸だったら、 杉の板でおおってあげよう。

10 私は城壁、私の乳房はやぐらのよう。 そのために、私はあの方の目には 平安をもたらす者のようになりました。

11 ソロモンにはバアル・ハモンにぶどう畑があって、 そのぶどう畑を、守る者たちに任せていた。 それぞれは、そのぶどうの実に代えて 銀千枚を納めることになっていた。

12 私が持っているぶどう畑が私の前にある。 ソロモンよ。あなたには銀千枚、 その実を守る者には銀二百枚。

13 庭の中に住む仲間たちは、 あなたの声に耳を傾けている。 私にそれを聞かせておくれ。

14 私の愛する方よ、急いでください。 かもしかのように、 若い鹿のようになって、 香料の山々へと。